

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本構想は、本学と関係が深いロシアの大学及び学術研究機関を交流組織として、グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し、全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材を育成するという観点から①相互の異文化を理解する短期学生交流（学部1・2年生対象）、②質保証された単位取得を伴うプレ留学交流（学部3・4年生、博士課程前期学生対象）、③両国の高いレベルの共同研究を基盤とした大学院生の教育研究交流（博士課程前期・後期学生対象）が実施されている。

第一段階の異文化交流体験型プログラムでは、ノボシビルスクおよびモスクワに学生を派遣してきた。大学やロシア科学アカデミー傘下研究所を訪問し、学生や研究者たちと直接交流することにより、学生は留学先や研究パートナーとしてのロシアのポテンシャルを見出し、それぞれの立場で日露交流の意義と重要性を理解することが出来た。この経験から、より長期の留学を志す学生も増えており、留学を希望する本学学生用のプログラムをロシア側大学と開発中である。受入に関しては、平成27年度までに対象大学全てから学部生を受け入れており、本学への長期留学への動機づけとなっている。

第二段階の単位取得を伴うプレ留学プログラムについて、派遣では相手大学の既存のプログラム以外に、上述のとおり本学の学生の専門分野に特化した個別プログラムを開発中であり、受入では、本学にて英語で開講されている人文社会学系、理学系、工学系プログラムにロシアの対象大学の学生を受け入れており、ロシアの学生は、専門分野の講義の他、日本語・日本文化への理解を深める講義も受講している。

大学院生の教育研究交流のベースとなっているジョイントラボは、平成27年度までにIT分野、資源科学分野、エネルギー工学分野、農学分野で設置、認可されている。ジョイントラボでは実験・フィールドワーク、オンラインゼミ、教員による出前講座等による共同教育が展開されている。部局毎に設置される大学間共同教育委員会では、それぞれプログラムの進行過程で共同教育の企画承認や授業等单位互換の合意など、共同教育に関する事項全般の協議が行われており、理学研究科や文学研究科ではジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーの検討が進められている。このうち本学文学研究科とモスクワ大学心理学部とのジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーは、平成28年度からの運用開始見込みとなっている。この他、両国の高度な研究交流を基盤とした大学院生の教育交流拡大のため、各交流組織において先端研究ジョイントセミナーを開催している。平成27年度までに実施されたジョイントセミナーは、9分野で20回を数える。ジョイントセミナーは、学生の発表の場を多く設けるよう工夫されており、新たな知見を得るだけでなく、文化的、社会的環境・背景の異なる学生、研究者が現状の問題点や最先端の研究成果について直接議論することにより、新たな問題の捉え方や問題解決の方法を見つけ出すための有意義な経験、国際的なディスカッションの場となっている。

本学ロシア代表事務所極東支部の新規設置に関しては、平成27年に極東連邦大学学長より同大学キャンパス内への設置が了承され、次年度には開設される見通しである。これにより、既存のロシア代表事務所（モスクワ）、同シベリア支部（ノボシビルスク）と併せ、広大なロシアにおいて地理的にもバランスのとれたヨーロッパ・ロシア地区、シベリア地区、極東地区の3拠点から成るサポート体制が確立する。事務所スタッフによる現地での支援に加え、派遣先に合った地域情報を提供することにより、留学希望者は渡航前の準備段階からきめ細かなサポートを受けることが可能になる。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成26年度				平成27年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
10人	10人	10人	12人	23人	14人	27人	26人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。